

「こどもの森」プロジェクト ～未来を担う子どもたちと繋がるために～

1 事業概要

本校では、将来、専門性を活かした職業人として地域や社会に貢献できる生徒の育成を目標に、生活関連産業現場の見学やスペシャリストによる講義、実演等を取り入れた教育実践を行い、スペシャリストになるために必要な専門の知識、技術の習得と職業観、勤労観の育成を図ってきた。

生活文化科保育類型選択者の多くは、将来幼児教育者になるため保育に関する様々な知識、技術の習得をめざしている。そこで実践活動の場として校内に「こどもの森」を設置し、保育環境設定から保育活動まで総合的に計画・実践することで、専門分野の技術力と実践力の向上を図ることを目的とした。

具体的には、幼児が安全に活動できる空間「森の保育園」づくりや幼児・子育て家族向けの支援活動プログラムを企画、実践することにより達成感や自己肯定感の涵養を図る。また、地域と連携して子育て支援に参加することで地域の子育て支援を担っているという実感をもたせ、将来の進路を見据えた学習への自覚を高めるなど、将来の職業観を育む効果的なキャリア教育の機会とする。

＜森の保育園づくり＞：家庭経営室

改
修
前



図1 家庭経営室外観

改
修
後



図3 家庭経営室外観



図5 家庭経営室花壇



図2 人工石の床と台



図4 床張り完成



図6 季節壁面装飾
シンボルツリー

生活文化科保育類型選択者3年生と各学科において専門の学習を生かす講座を「森の教室」とし、具体的にプレイルーム「森の保育園」内で開設することで、地域の子育て家族の支援や子どもの健全育成に貢献することをめざした。

「森の保育園」で使用する遊具等を製作する分野を「こどもの森工房」、設備改修等の分野を他専門高校との連携というかたちで進めた。

実践を展開する家庭経営室横の大きな「楠の木」をシンボルとして、未来を担う子どもたちの可能性の芽を育む空間になって欲しいという願いも込めて、実践活動のプロジェクト名を「こどもの森」と設定した。



図7 楠の木

2 事業のねらい

(1) 学科間・類型間連携

本校3学科で、本事業に取り組むことにより、「保育」という生活関連産業ヒューマンサービスについてそれぞれの分野が関連していることへの理解を深め、学科の持ち味を活かした活動の成果を認識させることで、学習意欲の向上を図るとともに、学科間の更なる連携を深める。

(2) 学校間連携

専門の技術を活かし、一つの空間を共同で作りに上げることにより、学校の垣根を超えた繋がりがあることを学び、共に活動することによる達成感や有用感の育成を図る。

地域の子育て家族への支援や子どもの健全育成への想いをかたちにすることで、専門高校の特性と生徒の活動を広く情報発信する機会とする。

(3) 学校・地域間連携

ア 地域

地域における子育て支援の現状を理解した上で、子育て家族の課題を捉え、専門技術を活かした活動により、地域の子育て支援の充実をめざす。

イ 学校

(ア) 大学・短期大学

上級学校における子育て支援関連研究活動の見学や参加を通して、より専門的な知識技術を学ぶ。あわせて、上級学校を知る機会とし、将来の進路を見据えた学習への取り組みを促す。

(イ) 小学校

地域の小学生を対象にした学習成果発表の実践を通し、地域で役立つ人材としての資質の向上を図る。

ウ 外部講師

各分野を専門とする大学講師や社会人を招へいすることで、生徒・職員の技術力向上や生徒の幼児教育者としての職業観の育成を図る。



図8 事業イメージ



図9 出水工業高校
生徒との共同作業

3 連携の概要

(1) 学科間・類型間連携

本校は、生活文化科、食物科、衛生看護科の3学科を有し、生活産業のスペシャリストをめざして専門の学習に専念している。生活文化科の保育類型が中心となり各類型や各学科の専門性を生かした地域の子育て支援に取り組んだ。

(2) 学校間連携

出水工業高校、川薩清修館高校と連携し、子どもが安全に活動できる空間として、家庭経営室の改修と木工玩具製作、玩具のユニバーサルデザイン等、それぞれの専門性を生かした分野で活動を行った。

(3) 学校・地域間連携

ア 地域

出水市社会福祉協議会野田支所と連携し、地域の児童クラブや子育てサロンでの実態調査や交流活動、家庭経営室の改修についてのアドバイス等、子育て家族を対象とした支援活動を行った。

イ 学校

(ア) 上級学校

鹿児島純心女子大学の「子育て支援に関する講義」と「大学生による活動の実践」に参加・見学し、子どもの活動を支援するための技術の向上を図った。また、鹿児島女子短期大学の「造形表現に関する出前授業」を活用し、造形で扱う素材の知識を深め、造形遊びの技術の向上を図った。

(イ) 小学校

言語表現の学習を活かし、出水市立野田小学校の全クラスを対象に絵本の読み聞かせを実施した。また、小学1、2年生を対象に音絵本による読み聞かせを実施し、実践による技術向上を図った。

ウ 外部講師

地域の専門家をリトミック、言語表現の講師として招へいし、表現活動の技術力向上を図るとともに幼児教育者に求められる資質の向上及び職業観の涵養をめざした。



図10 プロジェクトチームの組織図

4 研究・取組の実際

(1) 活動経過

日	内 容	備 考
4 月		
10日	・生活文化科生徒へのプロジェクト説明 ・「こどもの森」イメージ画作成 ・遊具・玩具のデザイン検討 ・ユニバーサルデザイン玩具制作	保育類型 3 年 保育類型 2 年
12日	・木製玩具調べ（個別学習）（～7月）	情報類型 2 年
24日	・お茶会用菓子試作開始（郷土菓子「いこもち」）	食物科 2 年
27日	・外壁と周辺の確認と危険箇所点検	情報類型 3 年
29日	・[リトミック・言語表現講座①]（外部講師） ・家庭経営室周辺の側溝蓋製作（～6月）	保育類型 3 年 出水工業高校建築科
5 月		
1日	・木製玩具についてのグループ学習（発表）	情報類型 2 年
15日	・外壁デザインの検討及び室内危険箇所点検・実測 ・幼児に起こりやすい病気やけがについて学習	生活情報類型 3 年 衛生看護科 3 年
22日	・第1回担当者会	出水工業高校教諭他
25日	・リトミック・言語表現講座②	保育類型 3 年

・服飾素材(残布活用)を生かした玩具の製作		服飾類型 2 年
6 月		
1 日	・食のアンケート作成・配布	 食物科 3 年 保育類型 3 年
2 日	・リトミック・言語表現講座③	
3 日	・こどもの意識調査 描画から子どもたちの「森」「あそび」についての意識を探る。	
5 日	・児童及び子育て家族の意識調査と親子観察等	出水工業高校 社会福祉協議会代表 食物科 2 年 食物科 3 年
19 日	・子育て支援センター「ぱぴいら」見学	
20 日	・第 2 回担当者会及び第 1 回検討会	
21 日	・子育て支援活動の講義（鹿児島純心女子大学） ・お茶会用菓子試作 7 回目（郷土菓子を「ごまぼうろ」）	
22 日	・食のアンケート回収・集計・分析	
7 月		
3 日	・「日本の生活文化を知ろう：お茶会」プログラムの検討	学校家庭クラブ
6 日	・リトミック・言語表現活動④	保育類型 3 年
9 日	・粘土による造形講座（鹿児島女子短期大学）	衛生看護科 3 年 保育類型 2 年 保育類型 3 年 衛生看護科 3 年
10 日	・幼児に起こりやすい病気やけがについてグループ学習	
13 日	・家庭経営室清掃	
23 日	・鹿児島純心女子大学「特別講義」見学	
24 日	・幼児に起こりやすい病気やけがについてグループ発表	
25 日	・「発熱と脱水」「やけど」について資料作成開始（～9月）	
8 月		
上旬	・家庭経営室内及び周辺の改修 ・装飾用壁面・木工家具の製作	出水工業高校建築科
24 日	・森の教室「日本の生活文化を知ろう：お茶会」 ・お茶会用菓子の作製	学校家庭クラブ 食物科 2 年
	  	
	 	
9 月		
7 日	・リトミック・言語表現活動⑤・⑥	保育類型 3 年
12 日	・出水工業高校との共同作業	出水工業高校建築科
25 日	・リトミック・言語表現活動 ・ユニバーサルデザインの玩具調べ	保育類型 3 年 川薩清修館高校
10 月		
2 日	・リトミック・言語表現活動⑦～⑨	保育類型 3 年
3 日	・鹿児島純心女子大学「こども講座」リハーサル参加	
9 日	・鹿児島純心女子大学「こども講座」リハーサル参加	
12 日	・鹿児島純心女子大学「こども講座」リハーサル参加	

12日	・ 第3回担当者会	出水工業高校
13日	・ 鹿児島純心女子大学「こども講座」本番参加	社会福祉協議会代表
20日	・ 文化祭 <森の保育園：プレイルーム> ○からだを使った遊びと数遊び 「木の実をあげよう」 ○造形表現遊び「こねこね粘土」 小麦粉粘土と紙粘土を準備。年齢にあわせた素材で造形する。 ○言語表現「もりのおはなし」 パネルシアター・読み聞かせ ○玩具での遊び（手作り玩具）など 7つのブースを設けた。 <森の教室：ステージ発表> 音絵本「めっきらもっきら　どんどん」 影絵「うんちをしたのはだれよ！」 トーンチャイム「星に願いを」	保育類型 3 年 保育類型 2 年
11 月		
6日	・ 森の教室「親子食育&クッキング講座」	食物科 3 年
16日	・ 森の出前教室「絵本の読み聞かせ」：野田小学校	保育類型 2 年
27日	・ リトミック・言語表現活動⑩	保育類型 3 年
28日	・ 森の出前教室「こどもの病気やけがの手当講座」：たかおの交流館	衛生看護科 3 年
30日	・ 森の出前授業「音絵本」：野田小学校	保育類型 3 年
12 月		
10日	・ リトミック・言語表現活動⑪	服飾類型 3 年
18日	・ 森の教室「音あそび（リトミック）と着付け体験講座」	保育類型 3 年
1 月		
16日	・ 第 4 回担当者会及び第 2 回検討会	出水工業高校 社会福祉協議会代表 生徒代表（各校）

（生徒の感想）10月20日（土）文化祭 森の教室

- ・ 実際に触れあい，一人ひとりのことをしっかり見守っている事が大切だと実感した。
- ・ もっと早く準備をしておけばよかったこともあったけれど，一人ひとり役割を果たしていた。たくさん子どもたちが来てくれてびっくりした。うれしかった。
- ・ 来てくれた子どもたちは性格も違うから，いろいろな子どもと遊ぶことができたし，接し方も学ぶことができました。

（生徒の感想）11月30日（金）野田小 出前講座（音絵本「めっきらもっきら」）

- ・ 小学生が，とても静かに音絵本を聞いてくれ，おもしろいところでは声に出して反応があり喜んでくれたので，ずっと緊張していたけれど，ほっとしました。

(2) 学科間連携

ア 食物科との連携

(ア) 茶菓子作り

郷土菓子の「いこもち」と干菓子「ぼうろ」を応用した菓子の研究を行った。栄養面、食べやすさ、加熱時間等の確認を行い作製した。

(イ) レシピ集の作成

「課題研究」で幼児食の特徴についての学習を行い、主食・主菜・副菜・デザートで分担し、子どもが食べやすいレシピを考案した。自己評価および第三者評価をして改善点を探り、レシピを完成させ、一冊にまとめた。

(ウ) 「親子で食育&クッキング講座」

平成24年11月6日（火）出水市に住む13組の親子を対象とし、親子で楽しむおやつ作りをテーマに講座を開いた。安価で手軽に作ることができる電子レンジを使ったさつまいものおやつ作りを行った後、生徒が「課題研究」で幼児食として考案したレシピ集の中から、ハンバーグ卵巻きや鶏肉のカラフル揚げなどいくつか調理し提供した。

また、視覚的食育教材として、以下を展示し「乳幼児のおやつ」について説明を行った。

- a おやつの定義や理想的な量について
- b 無果汁のゼリーと果汁を使ったゼリーの違いについて
- c 色々な食品に含まれる糖分や油分や塩分の量について



図11 ごまぼうろ作製



図12 試食作品



図13 クッキングの様子

(参加母親の感想) 11月6日（火）親子で食育&クッキング講座

- ・ 高校生の皆さんが一生懸命考えてくださったのがよくわかりました。子育て中の母親は孤立しがちです。このような場がたくさんあるともっとうれしいです。

(生徒の感想)

- ・ 参加してくれた子どもたちもお母さん方にも予想以上に喜んでもらえたので、うれしかった。今回の経験は、今後、様々な場面で役に立つと思う。

イ 衛生看護科との連携

(ア) 幼児に起こりやすい病気やけがについて学習

「小児看護」の授業の中で、「小児の生理」で呼吸・脈拍・血圧・体温・睡眠・水分代謝・尿便・血液・免疫を学習し、日常生活の中で、病気やけがを招きやすいものを選び、グループ毎に調べ発表した。

その中で、多くの生徒が関心を寄せ、その重要性を認識した「発熱と脱水」「やけど」を「子育てでサロン」で取り上げることにした。

(イ) 資料の収集

子育てをしている保護者が知りたい情報は何かを検討し、提供できる資料を収集し、まとめた。

(ウ) パンフレット、パネルの作成

発熱・脱水及びやけど等の対応や予防についてのパネル等を作成した。



図14 学習の様子



図15 パネル（発熱の手当）

(エ) 「子育てサロン」における伝達活動

- a 子どもの特徴及び発熱と脱水の説明
- b 脱水の予防と対応について説明
- c 経口補水について説明と試飲実施
- d やけどの手当についての説明



図16子育てサロン

(生徒の感想)

- ・小さい子どもに接することがなかったので、はじめは戸惑ったが、だんだんあやせるようになった。脱水について、お母さま方がとても真剣に聞いてくださったり、経口補水液とイオン飲料の違いについて質問があり、熱心だと思った。経口補水液の試飲では、「意外に飲みやすい」などの声があり、それをきっかけに話をする事ができた。

(3) 類型間連携

ア 被服類型選択者との連携

育児サロンの親子を招き「音あそび（リトミック）と着付け体験講座」を実施した。

季節の歌としてクリスマスソングでリズムあそびを行った後、お正月（1年の無病息災など願掛けに使用されるだるまさん）を題材に音あそび（リトミック）を行った。

次に、被服類型選択者が保護者に浴衣の構成、名称、浴衣が生活の中で形をかえ、生かされていたことなど説明し、着付け体験教室を行った。保育類型選択者は、保護者が体験をしている間、子育てサポーターとともに子守りを行った。



図17 リトミック



図18 着付け体験

(生徒の感想)

- ・子どもが泣いていて、なかなか泣きやんでくれなかったときはとまどいでしたが、ずっと笑顔で接することができました。お母さん方に、私たちが作ったおもちゃで手作りの良さやかわいらしさを喜んでもらうことができ、感激しました。（子守担当）
- ・リハーサルでうまくいかず、心配したけど、実際に乳幼児やお母さん方を目の前にしたら、緊張が解け、自分たちも楽しみながら活動できました。（リトミック担当）

イ 情報類型選択者との連携

科目「リビングデザイン」で家庭経営室の危険箇所点検を行い、生徒それぞれが改修案等について考えた作成したプレゼン資料をもとに検討を行った。出水工業高校と社会福祉協議会との検討会に向けまとめ、家庭経営室改修案を発表した。



図19 プレゼンの作成

(4) 学校間連携

ア 担当者会

(ア) 第1回担当者会

平成24年5月22日(火)野田女子高校にて、本プロジェクトに関わる出水工業高校建築科職員代表及び社会福祉協議会野田支所子育て担当者とプロジェクトの概要や活動内容について協議を行った。

また、家庭経営室の見学を行いながら子育て支援



図20 第1回担当者

における福祉の観点から情報交換を行い、共通理解を図ることができた。

(イ) 第2回担当者会及び第1回検討会

平成24年6月20日(水)出水工業高校建築科職員4名と木工班の生徒10名、社会福祉協議会野田支所子育て担当者と子育てサポーター代表、野田女子高校生活文化科保育類型選択者代表6名、情報類型選択者2名の出席のもと、本事業の実践の場である家庭経営室の安全性と機能性を高めるための改修と木工玩具・遊具について提案と検討を行った。



図21 第1回検討会

(ウ) 第3回担当者会

平成24年10月12日(金)野田女子高校にて、本プロジェクトに関わる出水工業高校建築科職員代表と社会福祉協議会野田支所子育て担当者と「森の教室」の活動内容について協議を行った。

(工業高校生徒の感想)

- ・野田女子高校の生徒の方々と向かい合い、企画を開くという形式が実際の設計会社での依頼主との企画・立案の場の様で話しの聞き方等とても勉強になった。
- ・人としてしっかり話し合いどうしたいのか、また、どうして欲しいのかその事をよく考えて意見・要望に応えられるようになりたい。

(エ) 第4回担当者会及び報告

平成25年1月16日(水)出水工業高校建築科職員代表と木工班生徒代表3名、社会福祉協議会野田支所子育て担当者、野田女子高校生活文化科保育類型選択者代表6名で、これまでの活動の経過報告と成果報告、並びに今後の連携の在り方について協議を行った。



図22 報告会

イ 出水工業高校

(ア) 家庭経営室の改修と屋外設備設置

検討会での補修案を基に検討し、安全性と機能性を考慮した補修計画を立て、ガード設置や柵・すのこ、かばん棚の設計及び製作を行った。

a 側溝蓋製作

家庭経営室(森の保育園)周辺にある側溝に蓋を設置した。

部材取りでは、段差解消と安全性を高めるための面取りを行い、腐食を防ぐためにバーナーで焼き付け、洗った後しっかり乾燥を行った。

表面にビスが見えないよう組み立て120cmの程度の長さで50個作成し、設置する際に溝の長さに合わせ調整を行った。



図23 蓋の組み立て

b 人工石台・流しのガード設置

人工石表面に木端を接着剤を塗布し、接着した。一晩置き、剥すことで、適した接着剤の検討を行い、コーナーガードを設置した。



図24 ガード設置

c 壁面装飾シンボルツリー製作

保育類型2年生のデザイン画を基に季節の壁面装飾した。



図25 設置前



図26 デザイン画



図27 設置後

d 棚製作

天板等、幅の広い板材がないため、集成材を製作し組み立てた。その後、本校生徒が出水工業高校の先生から技術指導を受け仕上げを行った。



図28 集成材作製作業



図29 組み立て



図30 仕上げ(ニス塗り)

e すのこ・柵製作

床の段差解消と衝撃緩衝材として人工石の床用のすのこを出水工業高校建築科3年木工班と共同で作製した。はめ込む空間に併せて板の留め具合を調整し設置する作業を行った。



図31 はめ込み前



図32 はめ込み作業



図33 はめ込み後

(工業高校生徒の感想)

- ・課題研究で側溝の蓋や、森の教室に置く棚を作って、直接子どもたちと接することはできなかったけど、喜んでもらえてうれしい。
- ・子供達の安全を確保しつつ、遊び道具など楽しい物を作ることが出来てよかった。

(イ) 木工玩具の製作

検討会で木工玩具・遊具の設計及び製作の協力を依頼していたが、公共の施設として安全面を高める必要から家庭経営室の改修に想定以上の時間がかかり、スケジュールが遅れ実施ができなかった。

今後、可能な範囲で連携を取り玩具製作に取り組みたい。



図34 木工玩具のデザイン

ウ 川薩清修館高等学校

(総合学科 1 年64名, ビジネス会計科36名)
ユニバーサルデザインについて調べる。

夏休みの課題として身近なユニバーサルデザインについて調べ学習を行った。その後, 幼児向けのユニバーサルデザインを意識した玩具・遊具について, 生徒たちのアイデアを募り, 玩具作製に生かした。



図35 ユニバーサルデザインの研究

(5) 学校・地域間連携

ア 地域 [子育て家族の意識調査と親子観察]

乳幼児の実態と子育てサポートの実際について理解を深めるために出水市野田の子育てサロン「ハッピースマイル」と薩摩川内市の子育てセンター「ぱぴいら」を訪問し, 乳幼児が遊ぶ様子と親子の触れあう様子, 活動全体の流れを観察した。

主な活動の内容として子育て中の母親が自分の時間を作るスタイルと季節をテーマに親子で楽しめる遊びを提供するスタイルがあることが分かった。

また, 同時に「幼児がどのような遊びを好んでいるのか」「保護者はどのような遊びをさせたいと思っているのか」等の聞き取り調査と交流を行った。



図36 子守りの様子



図37 聞き取り調査

(生徒の感想)

- ・利用者の安全を考えて, これから森の教室で使うおもちゃも木だけでなく布製のボールや積み木などやわらかいものを考えていかなければいけないと思いました。

イ 学校

(ア) 大学, 短大

a 子育て支援活動

(a) 子どもが楽しむ企画作り①

平成24年 6 月21日(木) 鹿児島純心女子大学
遊びについて学んだ後, 組織作りや企画運営の
手順について講義を受けた。

平成24年 7 月23日(月) 鹿児島純心女子大学
こども学科の学生グループによる実際の活動を学んだ。

(b) 「こども講座」の見学・参加

平成24年10月3, 9, 12日 鹿児島純心女子大学
講座のリハーサルに参加し, 講座を作り上げ

ていく過程や子どもを対象に活動を行うときの留意点や工夫等を学んだ。子ども役として参加することで講座の進め方を体験でき, 先生役の学生の動きの説明や言葉掛けなどサポートの実際を学んだ。リハーサル後, 問題点を出し改善方法を話し合う雰囲気や指導者の関わり方から実践活動について多くのことを学んだ。



図38 講師による講義



図39 特講Ⅱ見学

(生徒の感想) 10月13日(土) 純心女子大学「子ども講座」参加・見学

- ・子どもたちが飽きない工夫がされていました。子どもたちの誘導の仕方やゲームの進め方, 子どもへの接し方などとても勉強になりました。今後活かしていきたい。

b 造形技術表現〔粘土による造形表現〕

平成24年7月9日（月）野田女子高校

こどもの表現活動を支援するためには保育者自身が表現の方法や使用する素材を熟知することが重要であることを学び、粘土による造形表現の指導を受けた。実習では、粘土の特徴を学び、手で直接触れながら形を作っていく素材の特性を体験した。



図40 粘土での造形実習

(イ) 小学校

a 絵本の読み聞かせ

平成24年11月16日（金）出水市立野田小学校

専門科目で学習している言語表現を活かして、1年生から6年生のクラスで絵本の読み聞かせ活動を行った。



図41 絵本の読み聞かせ

b 音絵本の読み聞かせ

平成24年11月30日（金）出水市立野田小学校

「リトミック」で学習したことを生かし、音絵

本での読み聞かせを行った。最後に音を出している楽器や道具を説明し、どのような場面で使われていたかクイズにしてするなどを振り返りを行った。

ウ 外部講師

「森の教室」を実施するに先立って、生活文化科保育類型選択者を中心に、地域の施設訪問による調べ学習を行った後、以下に示す、各専門分野の外部講師による講義や実習による指導を受け、技能向上を図り、学習した内容を発展させた活動へつなげた。

(ア) リトミック

a リズムの基礎

b リズムパターン

c 即興演奏

d リズム遊びの体験と展開方法

e 音を使った表現活動



図42 絵にあう音探し

(イ) 言語表現技術

a 日本語の特徴

b ストレッチ方法

c 発声の仕方

d 言語表現の種類

e ことば遊びの体験



図43 持ち方と表現指導



図44 声色と抑揚の練習

表 1 外部講師による指導内容一覧

指導項目	指導者所属等	指導者名	
子育て支援	鹿児島純心女子大学	こども学科講師	林 愛子
造形表現技術	鹿児島女子短期大学	児童教育学科講師	井上周一郎
リトミック	NPO法人リトミック研究会	音楽教育指導者	有村 麗子
言語表現技術	学校法人池田学園	学校図書館司書教諭	池田 昭代
特別支援教育	出水養護学校	高等部教諭	野口賢二郎
保育環境（園芸）	鶴翔高校	農業科学科教諭	岩下 明子

5 成果と課題

(1) 成果

ア 学科間・類型間連携

地域の子育て支援を柱に、学科の特色を活かした活動プログラムを基に、実践的な実習を積み重ねることにより専門の知識・技術習得への意欲を高めるとともに、学科間の連携を深めることができた。



図45 プロジェクトチーム

イ 学校間連携

それぞれの専門性を活かし、プレイルーム「森の保育園」を協力してつくり上げることににより、学校の枠を超え繋がることの可能性について学び、共に活動したことによる連帯感や達成感が得られた。また、学校間で連携し、相互に技術提供しあうことで、より高い成果が得られることを実感できた。

ウ 学校・地域間連携

(ア) 地域

地域との連携により、広く子育て家族の意識調査と親子観察による実態、課題の把握ができた。その成果を基に、「こどもの森」活動プログラム検討や遊具の企画・立案等の具現化を通して達成感を得たことで、自己肯定感の涵養を図ることができた。

(イ) 学校

a 大学・短大

上級学校のより専門的な知識・技術を学び、保育関連の実際の活動を見学または参加することで上級学校への理解を深める機会となり、将来の進路を見据えた学習への意欲を高めることができた。

b 小学校

児童を対象に実践活動を設定することで学習意欲の喚起に繋がるとともに、子どもとのコミュニケーションを図る機会となった。

(ウ) 外部講師

専門の外部講師による指導を受けることで、各専門分野の技術力及び実践力を向上することができた。

(2) 課題

ア 学科間・類型間連携

今回の活動を通じて、それぞれの学科の特性を組み合わせた「森の教室」を実践することで学科間の連携を進めることができた。さらに、学科相互の理解を深め、連携をとりながら学校の活性化を図ることが必要である。

イ 学校間連携

出水工業高等学校と今後どのように連携を続けていけるか早急に検討をする必要がある。お互いの専門性を活かし今後も連携協力できるよう努めたい。

また、川薩清修館高等学校に提供いただいたユニバーサルデザインの玩具のアイデアを活かした玩具作製の活動に取り組む必要がある。

ウ 学校・地域間連携

地域の課題を的確に把握しながら、地域のニーズを捉えて専門性を活かした地域貢献を進めていく必要がある。

エ 高大連携

地元の大学、短大と連携した教育活動を設定し、上級学校の活動を知る機会を増やすとともに、将来の進路に繋がるような連携を進める必要がある。